

もりおか mirai おでかけミーティング実施報告書

開催日時	令和4年11月10日（木）午後6時～ 午後7時40分			
開催場所	上田公民館 ホール			
出席者	竹田 浩久	小笠原 秀夫	大石 仁雄	兼平 孝信
	三田村 亜美子	千葉 伸行	加藤 麻衣	高橋 和夫
	菊田 隆	村田 芳三	高橋 重幸	伊勢 志穂
	伊達 康子			
	岩手大学学生9人			

【開催内容】

大石仁雄議員及び加藤麻衣議員の司会進行により、竹田議長の挨拶の後、ワールドカフェ方式による「盛岡市の20年後の未来」をテーマに、下記の3項目を題目にして意見交換を行った。

- ① 盛岡市の「誇り」に思うこと、「残念」に思うことは何ですか。
- ② 20年後、盛岡市のどんな未来を実現したいと願っていますか。
- ③ 盛岡市の20年後のありたい未来を実現するために、一步踏み出して議会と大学生が一緒に取り組みたいことは何ですか。

○意見交換の中で出された意見や感想

【参加学生】

- ・地域行事・活動への参加。
- ・SNSを使った盛岡のPR。
- ・交流会への参加。
- ・学生や近い歳の人など、同じ環境にいる人の意見だけでなく、今回のように新しい気付きを得られる場所に積極的に参加し、知見を高める。
- ・色々な人と意見を交わして交流できる場所を増やしたい。
- ・議会の情報に目を通す。→議案、決算書
- ・情報発信→受け取る。

- ・意見書、陳情の提出。
- ・まずは自分が盛岡の良さや色々なことを知り、それを周りに伝えていくことで、考える輪を広げるような役割になりたい。
- ・盛岡市をよく知る。
- ・大人（議員、職員、住民）と語り合う場にもっと参加したい。
- ・人とのつながり、情が厚い盛岡に冷たさを提供。
- ・感想×データで皆をまとめる柱を。
- ・若い人たち（大学生中心）は、大人とは違った視点（高齢者のためではなく、普遍的、客観的に）で考えているため、その意見を積極的に聞き、考えを深め、発信していきたい。
- ・議会のこと、盛岡のことをもっと知るため、議会の傍聴をしてみたい。
- ・議会の傍聴をする。→現場に足を運んで現状を知る。
- ・係わりを作る。
- ・大学生の医療費も無料にしてほしい。
- ・道路が狭い、穴ボコが多い、除雪が良くない、融雪道路が少ない。
- ・誇れるもの→自然が豊か・子育てに優しい→PRが必要・PR不足
- ・若者が集まる場所がない＝職場が少ない

【参加議員】

- ・若者がくらしやすい盛岡市になるよう、若者の話をよくきく。
- ・若者を応援する。
- ・若者が定着できる収入と文化のある街。
- ・テーマを持って懇親会を開催。
- ・祭りや町内会活動に学生と一緒に参加する。
- ・学生との意見交換会を開催する。
- ・街中を共に歩きながら考える。
- ・音楽のまち→いしがきミュージックフェスティバルの発展
- ・くだものの食べくらべコンテスト。（りんご、ぶどうなど）
- ・スポーツクラブの合宿のまち盛岡→シェアハート村の再利用
- ・産業の育成→多様な働く場所の創設。
- ・若者・学生と一緒にまちづくり。
- ・若者の意見が反映させるため、特別委員会等へのオブザーバー参加の場を作る。一度だけでなく、何度か参加することでお互いの位置が判り、相互理解のもとでめざすまちづくりができるのでは。

- ・まだまだ議会がどういう所か理解されていない。
- ・もっと多くの人達が、つながることが出来る場（今日のように盛岡のこと、未来のことを話し合える場）をつくる。
- ・若い人たちの生の声を聴くための機会を定期的に開催。
- ・大学での出張議会。
- ・議員と大学生とのイベント。
- ・学生が盛岡に就職して残りたいと思われる企業リサーチと積極的誘致。
- ・新市庁舎建設の早期実現。
- ・歴史・文化・伝統の継承に少しでも尽力すること。
- ・残すべき自然、人情等、盛岡らしさを守る。
- ・今までブレインとして頼ってきたのは県大だったが、岩大も意見を戦わせると面白いことが出来ると感じた。第一歩として岩大生から意見聴取したい。
- ・議会を身近に感じてもらえるような発信（議会のお知らせや報告）をする。
- ・市民や学生が、意見を届けやすい仕組みを提起する。
- ・盛岡のことをもっと勉強する。
- ・様々な年代の方との意見交換。
- ・海外の議会の仕組み。

○学生アンケート自由記載欄

- ・勇気を出して参加して良かったです。
- ・直接会ってやることに意味があると思った。具体的に何かを決めるわけではないオープンエンドであったからこそ興味を持ち続けられると思う。

○参加議員の所感

【参加しての所感】

- ・学生の方の多くは議員に対して近づきたい、怖いというイメージを抱いていたようである。しかし、もり mira のフランクな雰囲気の中で親しみを感じ、市政に対しても認識が変わったと話されていた。このような機会をぜひ増やすべきと感じた。
- ・岩大生の皆さんが積極的に話してくれてとても良かったと思います。ワールドカフェも何回目かの開催で、我々議員も慣れてきて、非常にスムーズに進行したと思います。加藤、大石議員の進行も見事でした。
- ・高校生議会に続き、大学生の声を直接聞くことができ、大変良かった。特に対話が出来たことは、普段なかなか難しいことであり、新鮮だった。
- ・久しぶりに若い学生と話をして新鮮だった。

- ・岩手大学の学生さんは盛岡・岩手の未来に対し様々な意見やヴィジョンを持っており、感心しました。今後も学生さんや若い人たちから意見を聞く場があれば良いなと思いました。盛岡大学での開催時は学生さんの参加者が 20 名以上でしたが、岩手大学の学生さんの参加者は 10 名程度でしたので、もう少し参加者が多ければよかったかな、とも思いました。
- ・良い企画だったと思います。参加する学生に事前にテーマを表示して置けば、何かを考える時間が持てたのではないか。その場で中々話の糸口がつかめなかった。高校生議会のような、大学生議会を企画しても面白いのでは。
- ・議員の広聴活動として非常に有益だった。行政の中で反映されにくい若者（学生）の意見を聞く貴重な機会として継続しつつ、その声をどう具体化し生かしていくのか、より発展的な取り組みとなるよう努力したい。

【意見交換の内容やテーマについての所感】

- ・「盛岡市の 20 年後の未来」というテーマは少し漠然としている感がある。具体的なテーマで現状の不満や課題を踏まえ、夢や希望を自由に語ってもらう方がアイデアや思いを引き出したのではないかと感じる。
- ・最初の学生二人は理工学部の男子学生で、県外出身者。そのせいか、客観的に盛岡を見ており、自分たちの能力を生かせる企業が少ないことや、まちづくりに対する大胆な意見を出していた。次の二人は、人社の女子学生で、盛岡、花巻の出身で視点が穏やかだった。盛岡の伝統を残していきたいなど、地元出身者ならではの視点からの発言だった。
- ・20 年後の盛岡。現実的な将来であり、テーマとしては妥当であると思う。就労の場や子育てのしやすさなど、個別事案や住みやすさなど、総合的な意見などが色々発表された。学生の立場からは、盛岡がこうあれば良いといった所はこの時間ではまだ十分に認識されていないと感じた。それは、接した学生が市外や県外の出身者であり、コロナ禍で十分な活動ができないことにも原因があるのかもしれない。
- ・20 年後の盛岡について、議員の中には 70 歳代、80 歳代の方もいるので、20 年後ではなく「将来の盛岡」などと表現を工夫してはどうか。
- ・意見交換の内容は「盛岡市の 20 年後の未来」というメインテーマでしたが、これからは担う大学生と対話するテーマとしてはとても良かったと思います。現状を認識し、それを改善する施策の提案、20 年後という少し遠い未来を想像することによって、いろいろな意見が聞けて興味深かったです。
- ・短時間で話し合うことの良い面を感じた。テーマが大きすぎたような気がする。例えば、若者が集う街にするには？とか。突然参加したという学生がいたが、口が重かった。事前準備が全くなかったようでテーマを考え発言するまでの時間が長かった。

- ・盛岡市の未来について、誰もが主体的に考えられるいいテーマだったと思う。高齢だからもう自分には…、将来盛岡にいるかわからないなど、冗談を交えつつ、議員の経験と若者のアイデア、願いが自由闊達に議論されていた。
- ・最初、私のグループにいらっしゃる学生さんがおひとりだけでした。のちほど人数調整がされたのですが、それまで所在なげにされていたのが少しばかり気の毒に感じました。当初からグループ分けをするのではなく、いらした順にグループを振り分けた方がよろしいのではないかと思いました。
- ・ここで詳しく書くのは遠慮いたしますが、やはり大学によってカラーが違うと思いました。高校生議会では学校側が『参加した高校生がどうだったか』について興味がある様に思いましたが、大学はどうなのでしょうね？結果について報告したり、大学側から所感を求められたりすることはあるのでしょうか？
- ・大学側が、議会主催のこの催しを何かに利用できれば良いのにと 생각합니다。所謂『連携の取り組み』として実施することが出来れば、私が違和を感じる『イベント感』も消えるかもしれません。
- ・『私たち議員の側が学生に聞きたいこと』がテーマになっている様に思いました。この催しが『議会主催の懇談会』という性質であるのなら『学生が議会に聞きたいこと』を話してもらおうべきなのではないかと思えます。そのためには、早い段階から学生に意見聴取（自治会等を対象にするのが良いと思えます）を行うなどのやり方を検討すべきかと考えます。
- ・ワークを始める前にアイスブレイクをした方が良いと思えます。

【意見交換の中で出された意見についての所感】

- ・誰もが暮らしやすい、やさしい盛岡をつくっていく！という考えの学生がほとんど。感動しました。
- ・県外から岩手大学に入学した学生に、盛岡での生活に有効な盛岡市の行政サービス、各種施設、観光スポット、歴史や文化を知る機会があればいい。車道、歩道共に雪道で苦労している、道路の凸凹がひどく、除雪がうまくいっていないように感じるなど、厳しい意見も出された。
- ・川崎市出身の男子学生から、盛岡の街づくりに関し「あえて冷たい提言をしていきたい」との発言にはドッキリさせられた。盛岡人のなんとなく心地良く、ぬるま湯のような所もある雰囲気は一石を投じる気持ちからの発言だそうで、心に残った。
- ・先人や自然など、これまで盛岡が大切にしてきたことが意外と伝わっていた。
- ・就労の場、子育てについては厳しい意見であった。
- ・市議会は遠い存在に感じながらも、関心は結構あった。今回の事業を含め、ふれあい、

情報発信が大事に感じた。

- ・ 学生が卒業後、盛岡に残る可能性が低いと感じた。
- ・ 参加された学生さんは県外出身の方が多く、外からの視点で盛岡市の魅力や弱点を伺うことができ、新たな発見がありました。盛岡の街並みがきれいだという意見があり、そういった魅力を磨くことが重要だと思いました。学生さんも議員とざっくばらんに話をすることができて楽しかったとのことでしたから、このような機会をもっと作りたいと思います。
- ・ 賃金を上げるべきなど、働き方に関する切実な意見が多かったように思う。国政課題とせず、地方自治体としても、その願いにどう向き合うのか、何ができるのかを真剣に考えていくことが大きな課題だと感じた。
- ・ 意見交換中に感じたことは「研究の課題解決の様にアプローチするのだな」ということです。個人的には生活実感が背景にある意見を聞きたかったのですが。
- ・ そういう意味では、彼らがどんな毎日を送っていて、どんなことを考えているかについて想像しづらい時間でありました。こういうことを知りたいのでワークをやっている様に思うのですが…ただ、意見交換のテーマ外での雑談の中でその様なことを話してくれた参加者がいて、そっちの方をもっと聞きたかったです。
- ・ 議員側が学生に話をするのではなく、学生から話を聴くためにやっていると私は思っていたのですが、必ずしも全員がそのように思っていないということが解りました。